

# 赤谷の森から

～最近の活動報告～

赤谷森林ふれあい推進センター

赤谷森林ふれあい推進センター（以下「赤谷センター」）は、群馬県北部のみなかみ町に位置し新潟県との県境に広がる約1万ヘクタールの国有林（通称：赤谷の森）をフィールドとして活動しています。

この赤谷の森では、「三国山地/赤谷川・生物多様性復元計画」（以下「赤谷プロジェクト」）に基づき、官民協働で管理・運営しており、その運営は地域住民で組織する赤谷プロジェクト地域協議会と公益財団法人日本自然保護協会、関東森林管理局の三者により進められています。

赤谷センターは、国有林側の現地担当機関として、三者間のみでなく、みなかみ町とも連携し、地元小学校の森林環境教育の受け入れや、一般者向けの自然散策会の開催などを企画して、実施サポートを行っています。

今回は、最近の活動報告として昨年10月から12月までに実施した赤谷センターでの活動についてご紹介します。

## 1. 大学生、高校生向けの森林環境学習

赤谷センターは、県内外の大学や高校などの自然環境に関する学習の受け入れを行っており、学生・生徒に赤谷プロジェクトの目標でもある「生物多様性の復元と、持続可能な地域づくりを推進する取組」について学ぶ場を提供しています。昨年秋にも複数の学校から実習フィールドの提供の依頼があり、赤谷センター職員が講師となりました。

10月20日、群馬県立農林大学校の森林コース2年生を対象に校外学習を受け入れました。

学習では、小出俣林道沿線にあるカラマツ漸伐試験地を見学したほか、カラマツ伐採後に侵入した広葉樹の生育状況を観察し、自然林への復元について学びました。また、シカの生息密度が低い赤谷の森で効率よくシカを捕獲するための試験地を訪れ、GPS首輪発信機を装着して放獣しているシカの動向調査の様子を見学しました。さらに、イヌワシの狩り場試験地を見学し、イヌワシが生息していくために必要な環

境づくりの実例を学びました。生態系の頂点にいたるイヌワシの数は全国的に減少傾向にあり、その生息環境を維持していくためには、イヌワシの生態に合わせた環境づくりや森林施業が重要です。

イヌワシが2015年から伐採・搬出を行った森林を新たな狩り場として利用した結果、その繁殖に繋がりました。それを聞いた学生からは、「イヌワシと森林環境整備の関連について知らないことが多く、とても勉強になった」などの発言があり、生物多様性への関心の高さがうかがえました。

また、12月9日には、群馬県立尾瀬高等学校の1年生が校外学習を行いました。

はじめに、いきもの村に設置しているシカ捕獲用の箱わなを見学し、シカの低密度管理の取組を学びました。箱わなへのシカの誘引には「鉾塩」という塩の塊を置きます。ある生徒は以前、シカの捕獲技術に関する学習で紹介された鉾塩に大変興味を抱いていたそうです。今回初めて鉾塩を見て、その大きさに驚いただけでなく、ミネラルを舐めにくるシカの行動が、結果的に誘引や捕獲に繋がることを再認識したようです。過去に学んだ内容の疑問が赤谷の森で解決したことは、赤谷センター職員としても大変嬉しい出来事となりました。

このほか、薪炭林の伐採後に成長したブナやミズナラの二次林、炭焼き窯跡、木の実を食べる

農林大学校、尾瀬高校の学生・生徒参加による森林環境教育



シカ捕獲試験地にて箱わなや鉾塩の説明（上：農林大学校 下：尾瀬高校）

ために登ったクマの爪痕が残る樹木、シカやイノシシが身体についたダニや虫を取り除くため身体を土にこすりつける「ヌタ場」などを見学し、様々な生物が生息する自然環境の大切さについても学びました。

各学校の教員から「これまで出向いた地域では見られない内容もあり、違った視点で多くのことを学べた。学習効果が高い実習だった」との感想をいただきました。また、学生・生徒からは「猛禽類との共生の大切さ、自然林へ遷移していく過程が現地を見て実感できた」、「地域を取り込んで実施する取組の重要性を知ることができた。今後の活動の推移を見ていきたい」などの感想があり、将来の森林環境分野を担う人材として期待するところです。

森林環境への国民の関心が一層の高まりを見せるなか、今回の環境教育をきっかけとして学生・生徒の皆さんが興味を持ち、赤谷の森の様々な活動に参画してくれることを期待しています。

## 2. 一般向けの各種イベント

赤谷センターでは、みなかみ町の協賛を得て「自然散策会」を企画・開催しています。2022年秋の部では「紅葉のトンネルと歴史街道をゆく」と題して、旧三国街道を群馬県側から新潟県側へ散策するイベントを開催しました。

開催日の10月20日は、三国山周辺の紅葉がほぼピークとなり、赤のモミジ、ヤマウルシ、黄色のクロモジ、コシアブラなどが目にも鮮やかな色彩で参加者を迎えました。新潟県と群馬県の県境付近では、赤や黄色で彩られた紅葉と針葉樹の緑色との美しいコントラストを見ることができ、参加者から歓喜の声が上がりました。

今回の散策会では、植物に関すること、倒木でできたギャップ（陽が当たる開けた場所）、街道から見下ろせる法師温泉の由来などについてガイドから説明を受け、参加者の興味をそそっていました。また、日本海と江戸を結ぶ街道として、昔から人々の暮らしに関わりの深かった三国街道の歴史にも触れ、雪崩で命を落とした旧長岡藩士の墓、三国山の守り神でもある三国権現の由来、石畳や馬頭観音などの遺構を見学し、川端康成や与謝野晶子なども歩いた昔の街道の様子に思いを馳せました。

11月19日には、いきもの村に設置した炭焼き窯を用いて「炭焼き体験会」を開催しました。世界的に炭焼きの普及活動を行っている国際炭焼き協力会の広若剛さんを講師としてお迎えし、経験豊富な体験談を聞きながら炭焼きの火入れから窯出しまでの手法を教わりました。

伏せ焼きした焼けた炭を急速に冷ますことによって、短時間で完成させる炭焼き法のほか、窯を使って、窯入れから火付け、自燃(じねん)までを経る炭焼き法の2種類の方法を学びました。

参加者は、炭には関心があるものの炭焼き体験は初めてという方が多く、炭ができて上がるまでの工程全てを楽しんだようです。また、自作製した炭を持ち帰ることができたため、たき火やバーベキューなどの着火剤、自宅の消臭剤、畑の肥料など、参加者同士で様々な活用方法を共有し、楽しんでいました。

今後も、子供から大人まで幅広い年齢層の皆様に、自然環境や先人達が培った技術などに触れ、学ぶ機会を設けることで、赤谷の森の魅力を再発見し、親しんでいただける取組を企画してまいります。

赤谷の森自然散策（秋）



赤、黄、緑のパッチワークに彩られた旧三国街道を散策

炭焼き体験会



材料を地中に埋めて土をかけ、たき火で蒸し焼きにする「伏せ焼き」を体験